

平成23年2月第2回教育委員会定例会

【日 時】平成23年2月24日(木)午後1時30分～午後4時25分

【場 所】北栄町大栄農村環境改善センター 会議室

【出席者】吉田助三郎委員長・河本恒夫委員長職務代理者・齋尾暁美委員・磯江典子委員・岩垣教育長・杉川教育総務課長、田中生涯学習課長・阪本指導主事・桑本指導主事・大庭教育総務課係長

【議事日程】

1 会議録署名委員の指名 齋尾委員、磯江委員を指名

2 行政報告

教育長

・台湾台中市友好親善交流訪問(2月9～12日)について

2月10日には旧台中県イシオカ郷(三朝町交流)へ友好親善訪問、2月11日には本町と交流していた旧台中県ダードゥ郷へ訪問。台中市(台中県を廃止し近隣各郷が合併し誕生:庁舎は鳥取県庁の3倍程度)との今後の交流について、話し合いをしたが、市としては交流はしたいが、交流していない旧地区もあり、また、市予算のこともあり、交流は困難と思われる。しかし、旧地区で行われていた個々の交流活動は大切にしていきたいことであった。本町においては、引き続き交流することを依頼した。また、旧郷長が福祉局長をしておられ、話し合いを行った。その中で、旧ゴウで交流していたことは大切にしたいと依頼し、引き続いて交流をしたいとの返答を受けた。

(質問)台中県は台中市となった。台湾との交流の県内での状況はどうなっているか。

(回答)鳥取県、三朝町、北栄町が交流。米子がいなまんとはイベントに参加。北栄町の提案としては、冬の雪のころにダードゥ郷の方30人程度着てほしい。レークサイド10周年イベントに参加してほしい。と要請した。

・平成23年度予算編成に伴う重点施策議会説明会について

平成23年度予算編成にあたり、教育委員会の主要な新規・継続事業について議会へ説明した。主要事業について資料に基づき説明をした。その中の「学力向上施策」については、特別支援教育及び通常学級の児童の支援のため、特別支援教育補佐員の各学校2名体制(1名増)、困り感のある子ども支援のため北条中学校に学習支援員補佐員1名設置、家庭教育の充実のため、家庭教育12か条及び6:30運動を展開し、さらに「教育シンポジウム」や「サマースクール」を実施、光アドバイザー招聘し校内における授業研究を行い教師の教育力を向上していくこと、小学校低学年からの

外国語活動の育成の観点から外国語教育指導員の配置等主要事業について説明した。

(質問) 予算はすべて説明か。

(回答) 教育委員会における目玉的な主要な事業を資料添付し詳細を説明した。説明は主なものだけだが、全体としては、総務課からの資料である。

・平成23年度教職員人事について

平成22年度末、本町では定年退職者3名、早期退職者1名があった。今後の人事は県教委とのヒアリングが3回行われ、最終的な調整が行われる。

最終調整後、正規教職員は3月15日に臨時教育委員会を招集し承認する。その後、講師の人事を行い、最終的に全体の人事を3月24日に決定し、25日に報道提供することとなる。

・2月23日開催議会教育民生常任委員会意見交換会について

本会は、議会委員会委員所属委員5人と青亀議員、教育長、各課長、各校長、幼稚園長が出席し意見交換を行った。今回の意見交換は、学校の現状を聞いてほしいとの観点から教育委員会から出席のお願いをし、実施することとなった。会では、各校長等から学校の現状を報告し個々意見交換を行った。意見交換では、学校が知らない質問内容や個別資料を提示されるなど事務局が知らない個別の情報もあった。石丸委員長からは今後も継続して行う必要があり、常任委員会での招集も行っていくことも確認した。

(質問) 意見交換会は何回もしているのか。

(回答) 今回が初めての取組みであった。定例化する必要はないと考えているが、議会常任委員会と教育委員会関係者が一緒になって取り組んでいくような取組みとしていきたい。

(質問) 議会教育民生常任委員会は全員が出席されたのか。

(回答) 全員が出席されていた。

(意見) 理解されていない部分があるようだから理解される場を設けることはいいことである。今後も委員に理解を深めてもらいたい。

(意見) 学校は議会の状況が分かっていない。TCC放送を見るなどして議会での教育関係の議論を把握してもらいたい。

(意見) 意見交換会での議論を直接会場で聞いてみたかった。

(その他) 参観日の懇談において、ある保護者から議員が北条中が悪いのは校長のせいだとの発言があった。ばかにされたようで悔しい。しかし何か原因があるのではないか。いじめについても取り合わないような対応をされていることがあるのではないか。

(回答) 学校に報告：校長は学校で出来る取り組みを行う。

・退職校長会からの要請について

退職校長会から県内での取組みとして、「教育の日」の制定について要請があった。県内においては、南部町のみが平成20年に制定している。今後は本町の考え方との比較を行うなど十分検討する。

(質問)「教育の日」については、何か障害となるものがあるのか。県の状況もあるのか。

(回答)特に支障等があるわけではない。特定の取組みとなるので、十分内容を検討し、町民に理解され一体となるようなものとならなければならない。

(意見)退職校長会は熱心に取り組んでいる。

(質問)「教育の日」は、独自に町村が決めているのか。

(回答)町に意味のある日を制定している。県内統一の取組みとはなっていない。例えば、同日公開参観日とかが考えられるのではないか。

(質問)業務、イベントのことを考えて制定していく方向となるのか。

(回答)学校の文化祭などイベントに合わせることも一つである。そこは十分検討して意味のあるものとすればいいと考える。

教育総務課長

- ・小学校における児童の事故について

(質問)子どもの現在の状況はどうか。

(回答)なんともなく元気である。

- ・北栄町教育行政評価委員会の開催について

- ・北条幼稚園入園児童健康診断及び保護者懇談会の開催について

- ・工事発注について

- ・インフルエンザの状況について

- ・幼稚園代替施設関係予算について

4,958千円を2月16日臨時議会提案、承認済み。園庭は芝生とする。

生涯学習課長

- ・子育て学習講座の開催について

- ・高齢者対象小地域懇談会の実施について

- ・第5回北栄町公民館まつりについて

- ・第2回北栄町隣保館運営審議会兼児童館運営委員会の開催について

(質問)ホームページを活用してとあるがどういうことか。

(回答)個別の教室を町のホームページに掲載していくということ。

- ・平成22年度北栄町スポーツ表彰表彰式・第2回日本海新聞ふるさと大賞表彰式について

- ・第2回歴史民俗資料館運営委員会及び文化財保護委員会の開催について

- ・工事等の発注について

3 議事

議案第 2 号 北栄町中央公民館条例施行規則の一部を規制する規則の制定について

原案のとおり承認。

議案第 3 号 校区外就学について

原案のとおり承認。

議案第 4 号 校区外就学について

原案のとおり承認。

議案第 5 号 校区外数学について

原案のとおり承認。

議案第 6 号 要保護児童生徒の認定について

認定者 1 名

原案のとおり承認。

4 報告事項

(1) 平成 2 3 年度主要事業予算概要について

・外国語活動について

(質問) 新規の外国語活動について、時間が短いのではないかと。身につかないのではないかと。

イメージはどのようなものか。担任と A L T ・補助員か。

(回答) 英語学習は新教育課程により 5 ・ 6 年に導入され国の基準どおり実施。

1 ~ 4 年は総合学習の 1 月 1 時間を活用する。担任が主に行うが、補助として A L T または補助員を配置する。

(質問) 新学習指導要領で時間数が増えるのか。

(回答) 増えることになる。指導要領に新しい時間を入れることは困難である。

・音田教育振興基金について

(質問) 給付金はいつごろ給付するのか。

(回答) 高校入学準備金としているので 3 月には給付したい。

(質問) 選考基準はどうか。

(回答) まだ決定していないが、準要保護も参考にしながらと考えているが、市町村民税非課税世帯で、選考委員会により選考することとしたい。選考委員会は町長や教育委員長、校長で考えている。人数は 6 人予定しているが、状況により補正で増とすることとしている。

・学習支援員、特別支援教育補佐員について

(質問) 学習支援員はどのようなこと想定しているのか。

(回答) 学習支援員は、8 時間のフルタイムで学校の生活時間内で勤務する臨時的任用職員。数学の免許保有者で北条中学校新 2 年生を担当する。

(質問) 特別支援教育補佐員は、特別支援学級のみ担当するのか。

(回答) 通常学級にも特に配慮する子どもたちがいるため、通常学級も担当する。

・部落解放文化祭について

(質問) 部落解放文化祭実行委員会補助金の予算はあるのか。

(回答) 別に予算化している。

・社会体育施設について

(説明) 体育館については耐震化していない。災害等の避難所となっているため耐震化を実施するもの。

(質問) 民芸実習館は古い施設か。

(回答) 平成2年に建築されたもの。

(質問) 避難場所とあったが、小中学校はすでに耐震化してあるのか。

(回答) 耐震化実施済みである。

・社会体育について

(質問) ニュースポーツの体育指導員の窓口は北栄スポーツクラブか。

(回答) 生涯学習課が担当する。

・少人数学級について

(説明) 少人数学級の大栄小学校1学年について協力金を予算化しているが、国がまだ方針を決定していないが、国の基準として少人数学級となることがあり、その場合には国の負担となる。ただし、先延ばしとなった場合には県・町の負担で少人数学級を実施する。

・小・中連携事業について

(質問) 教科での両中学校での交流・研究と答弁があったがその後どうなったのか。

(回答) 教科ごとに集まり研究を行っている。

(意見) 中学校の交流は、教科だけでなく、部活動でも交流して欲しい。校長の意識が低い。指導者どおし、生徒どおしの交流を取り組んでほしい。小学校は水泳交流大会を実施している。

・光アドバイザー事業について

(質問) 光アドバイザー事業は学校に任せるのか。

(回答) 学校で取り組むこととしている。北条小は県費負担で道徳、その他は町費で取り組む。

・ICT教育について

(意見) 学校でパソコンが活用されていないようだ。導入されているのにもったいない。

(回答) 教科としては、技術、家庭科の位置づけとなっている。小学校より中学校の方が時間数が少ないかもしれない。

